

グループ名	ユニット名等	科 目 名	担当教員名	対象学年次	学期
現代社会	2 単位 国際社会	民族と国家	渡辺 敦子	2 年次	春

授業のキーワード	冷戦と民族紛争、民族紛争と国際関係、日米関係と日系アメリカ人
授業の概要・目的 及び修得させる知識・技能	①主要な民族紛争の生成と展開、それが国際社会に与える影響を学ぶ。 ②日系アメリカ人史を手掛かりに、多民族国家が抱える問題と日米間に横たわる摩擦への理解を深める。
履修のアドバイス・ 前提科目等	履修を考えている学生は必ず第一講に出席し、講義の目的や評価方法を理解した上で履修登録をすること。

## 授 業 展 開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第 1 講	オリエンテーション	講義の目的、評価方法、参考文献紹介。	第 9 講	多民族国家と国民統合—アメリカ合衆国①	アメリカ合衆国における国民統合理念の変遷を追う。
第 2 講	ナショナリズムと国民国家	近代国際関係の主体である「国民国家」とは何か？	第 10 講	多民族国家と国民統合—アメリカ合衆国②	平等の追求：アフリカ系アメリカ人と公民権運動、アフターマティブアクション
第 3 講	国民国家の形成—フランスとドイツ	二つの国民統合モデルを比較する。	第 11 講	多民族国家と国民統合—アメリカ合衆国③	日米関係の狭間に生きる日系アメリカ人：移住から強制収容へ
第 4 講	ユーゴスラヴィアの解体	なぜユーゴ国民のアイデンティティが、国家から民族に移ったかを読み解く。	第 12 講	多民族国家と国民統合—アメリカ合衆国④	日系アメリカ人の強制収容を例に、民主主義国家における安全保障と市民的自由のバランスについて考察する。
第 5 講	パレスチナ問題と中東戦争①	パレスチナ問題と中東戦争の歴史を、国際政治に及ぼす影響にも言及しながら解説する。	第 13 講	多民族国家と国民統合—アメリカ合衆国⑤	日米貿易摩擦と日系アメリカ人が置かれた状況、強制収容の補償運動について考察する。
第 6 講	パレスチナ問題と中東戦争②	中東平和の可能性と限界について考察する。	第 14 講	多民族国家と国民統合—アメリカ合衆国⑥	真珠湾攻撃と原爆に対する日米の認識を比較考察する。
第 7 講	東アジアの国際関係と民族問題	中国と台湾、韓国と北朝鮮を取り上げ、分裂経緯、対立が国際政治に与える影響を考える。	第 15 講	期末試験	論述形式、自筆ノートのみ持込可
第 8 講	南アジアの国際関係と民族問題	インドとパキスタンの対立を取り上げ、紛争の原因、国際社会に与える影響を考察する。	評 価 方 法		期末試験7割論述形式、自筆ノートのみ持込可、出席3割講義後に感想、質問などを書いて提出する用紙を出席票とする)
備 考 (関連する資格・試験等)		民族問題の基礎知識の習得と、進学してこの分野を本格的に学ぶための基礎作りを目指す。			
使用する教科書（必ず購入してください）			参 考 文 献		
特に指定しない。毎回レジュメを配布する。			大澤真幸・姜尚中編『ナショナリズム論・入門』（有斐閣アルマ、2009年） 塩川伸明『民族とネイション—ナショナリズムという難問』（岩波新書、2008年） 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』（有斐閣ブックス、2004年）		